

地域と学校の防災の 関わりに関する研究

～中学生を防災イベントに
参加してもらうには～

下馬地区について (概要)

人口 27,737人

若年層(20歳未満) 3,797人 15%

高齢者数(70歳以上) 4,713人 18%

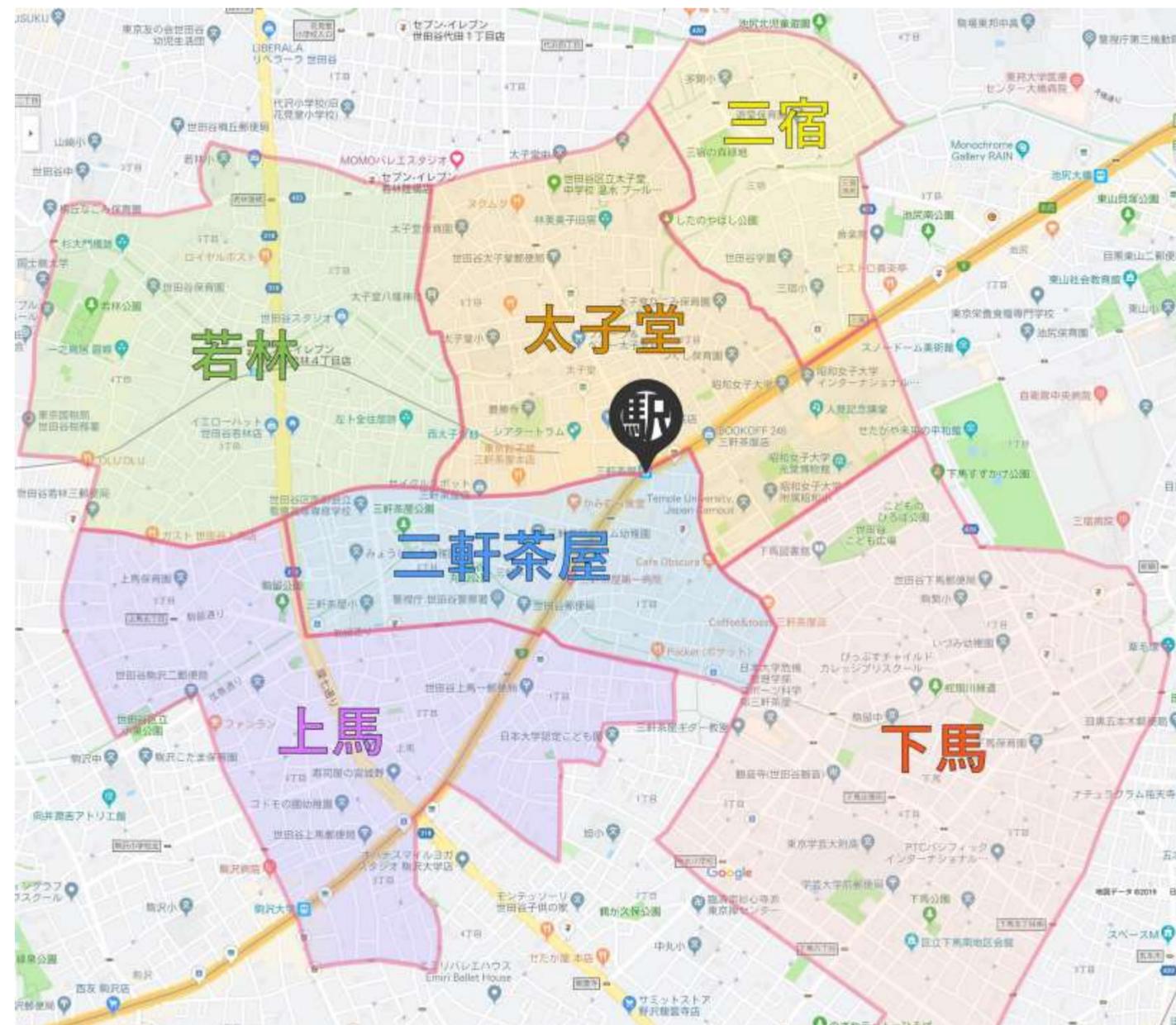
世帯数 15,695世帯

2024年12月 下馬地区

出典:世田谷区HP 世田谷区の統計

<https://www.city.setagaya.lg.jp/toukei/index.html>

参照日:2025年1月25日



活動実績

9/7 (土)

駒留中学校避難所運営訓練

9/26 (木)

世田谷区役所地域振興課ヒアリング

10/7 (月)

駒繋西自治会ヒアリング

11/10 (日)

野沢3丁目町会 秋の防災訓練

11/24 (日)

駒繋フェスタ

11/30 (土)

三宿中学校避難所運営訓練

12/14 (土)

弦巻中学校避難所運営訓練 アンケート・ヒアリング

リサーチクエスチョン・仮説・仮説設定の理由

【リサーチクエスチョン】
中学生に防災イベントに参加してもらうにはどうすれば良いか？

【仮説】
中学生にとって需要のある防災イベントを提供すればよいのではないか。



テーマの背景

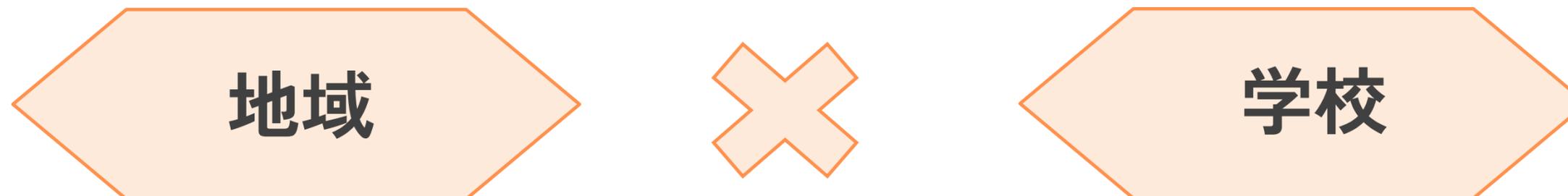
若年世代の防災活動の参加率の低下は、全国的に町内会の防災担当の世代交代の機会減少につながる問題になっている。

この事象は、防災イベントの参加者が高齢者しかいない現状や、防災イベント内容のマンネリ化など、多くの問題につながっていく。

下馬地区においても喫緊の課題になっている。 ※1

(※1 2024年1月25日、世田谷区役所にて実施したインタビュー調査より)

仮説設定の根拠



楽しく魅力的で参加しやすい防災イベントを実施することが、中学生を引き込むための重要なアプローチだということ。防災教育の枠を超えて、地域の絆を強化し、コミュニケーションと協力の場を提供することが、若者を引きつける鍵となる。^{※2}

※2次を参照 内閣府（防災担当）、「地域と学校がともに防災教育を進めるために～地域防災教育コーディネーターの育成に向けて～」
広井良典（2009）『コミュニティを問いなおす』、ちくま新書
吉原直樹（2012）『防災の社会学 第二版』、東信堂
地域まちづくり推進室（2021）『宮崎市地域自治区住民主体のまちづくり』、東信堂
伊藤雅春（2021）『熟議するコミュニティ』、東信堂
石井大一郎（2021）『横浜の市民活動と地域自治』、東信堂

研究方法

01

参与観察

調査者自身が調査対象である集団に加わり、資料を収集する方法。



02

ヒアリング

関係者から話を聞き情報収集する方法。



03

アンケート調査

特定の調査対象者に対して質問を行い、情報やデータを得る方法。



「中学生が防災に参加するためにはどうすれば良いか」を検討

調査① 参与観察

実際に防災イベントに参加し、
体験＋参加者の人数や男女比・年齢層の確認を行った

参加月日	イベント	参加した活動	気づき
9/7	駒留中学校避難所運営訓練	マンホールトイレ設営訓練、 発電機操作訓練等	PTAの方の参加も見られたが、 数名ほどだった。
11/10	野沢3丁目町会 秋の防災訓練	起震車体験やAED訓練	子連れが多いが、中学生の 参加は見られなかった。
11/24	駒繋フェスタ	消火器の補充や フリーマーケットの見学等	主に小学生が参加していた。
11/30	三宿中学校避難所運営訓練	総務・情報班を担当し、避難所 の受付設置及び受付対応・ 無線操作の体験	50～70代の参加が多数を 占めていた。

調査① 参与観察



参与観察をして気づいたこと



● 小学生や家族連れの参加者は多い

- ◆ **プラス面**：子ども向けの体験コーナー
(例:わたがしコーナー・起震車体験・AED体験) の
設置で参加が促進されている。
- ◆ **マイナス面**：遊びの要素や家族単位での参加の形
は、防災イベントに参加しやすい雰囲気を作り出し
ているが、中学生向けの防災プログラムではない。

調査② ヒアリング

町会・学校・自治体の取り組みの実態や認識している課題を確認

実施月日	調査対象者	実施場所	わかったこと	調査者
9/26	世田谷区 地域振興課 職員	世田谷区役所	<ul style="list-style-type: none"> ・「区のおしらせ」、防災指導や講演会を行っていること。 ・最終的に区役所職員が求める人物像として、避難所運営に携わってくれる人物に育ってほしいこと。 	秋本 新田
10/7	駒繫西自治会	世田谷区 下馬まちづくり センター	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会は区役所との連携はあるが教育機関との連携はないこと、巻き込みたいと考えていること。 ・町内会では防災イベントの発信をさまざまな媒体で行っており、いざという時に助け合える関係性の構築や、防災に関する理解啓発活動への参加など防災力の向上に努めてほしいと考えていること。 	大澤 鈴木 虻川
11/30	三宿中学校 校長	三宿中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のイベントの告知をプリントとして各クラスに配布していること。 ・生徒が地域のイベントに対して協力的に参加してほしいと考えていること。 	秋本 虻川

調査③ アンケート調査

● アンケート調査の集計方法・質問項目

① アンケート用紙を作成し、弦巻中学校TSAの生徒に配布。 ※3

(※3 Tsurumaki Student Aid

避難所運営を支援する弦巻中学校の生徒で構成されたチーム)

② 下馬グループの方でGoogleフォームを作成。結果を1枚ずつ入力。

集計日：2024年12月14日 弦巻中学校避難所運営訓練 **15名に配布 回収率100%**

1.あなたは地域で防災イベントが行われていることは知っていますか？

はい→どのような手段で知りましたか？

2.防災イベント以外のイベントに参加したことがありますか？

3.あなたが参加したいと思う防災イベントはなんですか？

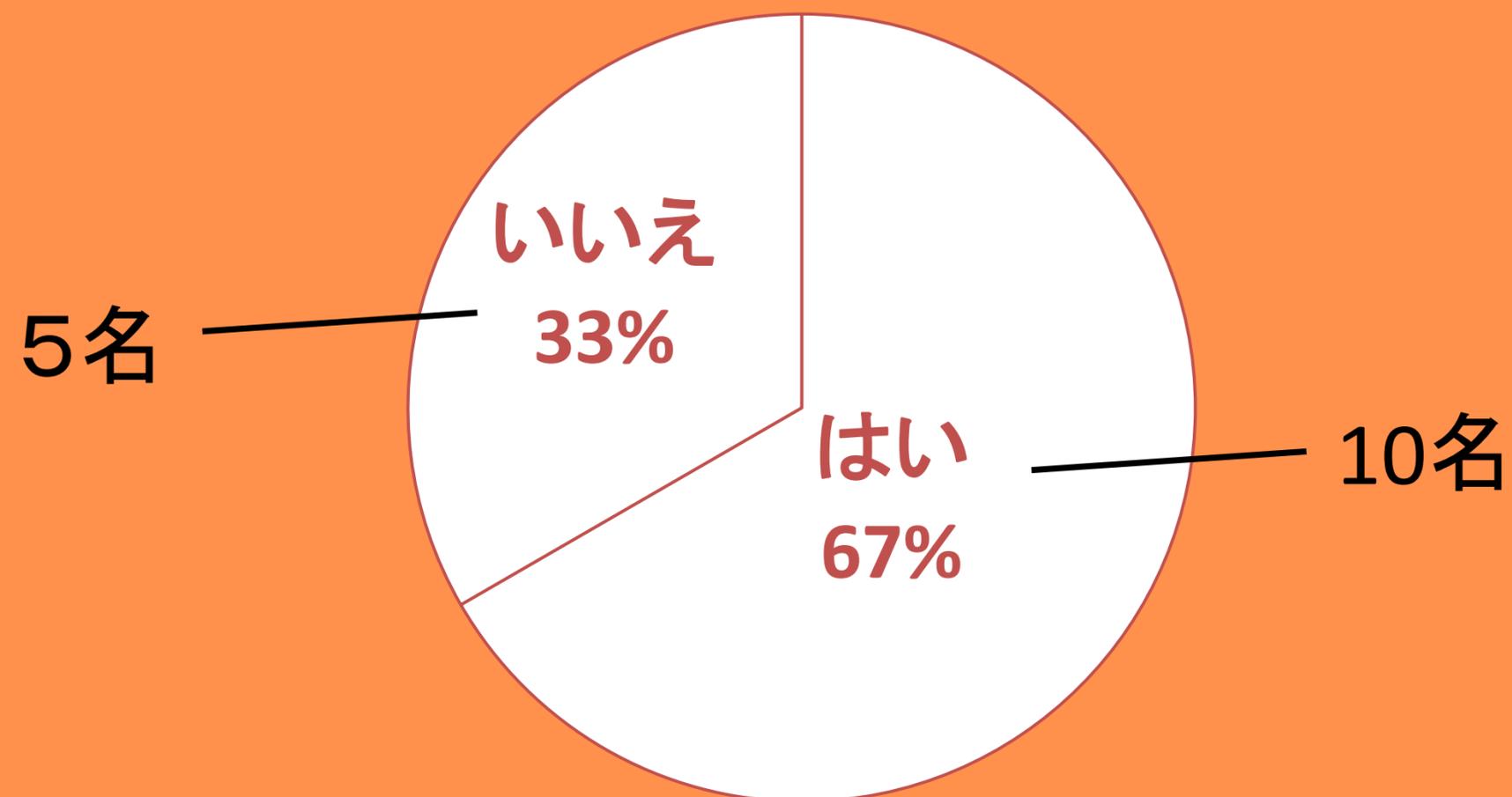
4.災害に対してどれぐらいの危機感をお持ちですか？

災害が起きた時に避難所運営やボランティア活動に携わりたいですか？

5.そもそもなぜボランティア活動をしているのですか？きっかけはなんですか？

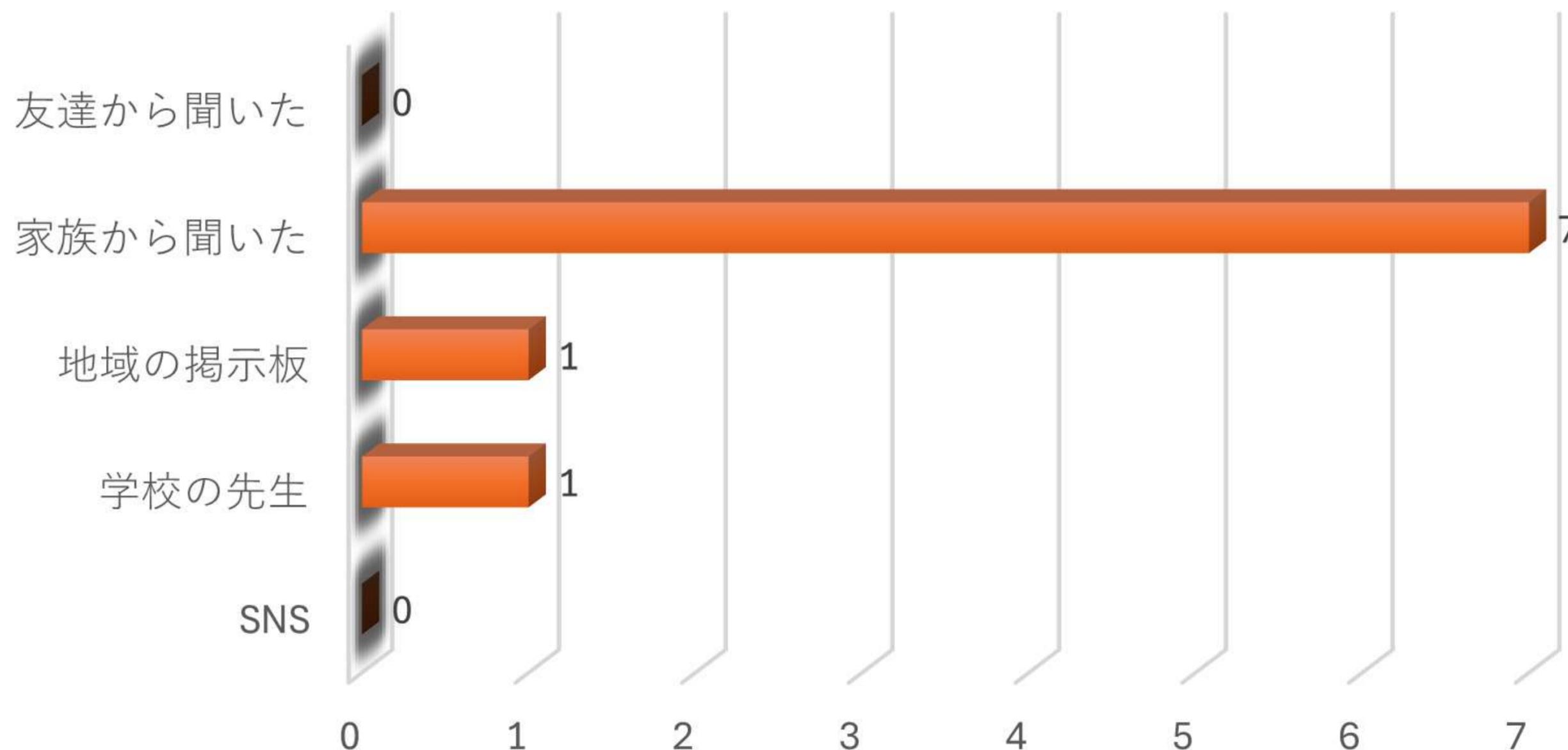
調査③ アンケート調査

あなたは地域で防災イベントが行われていることは知っていますか？



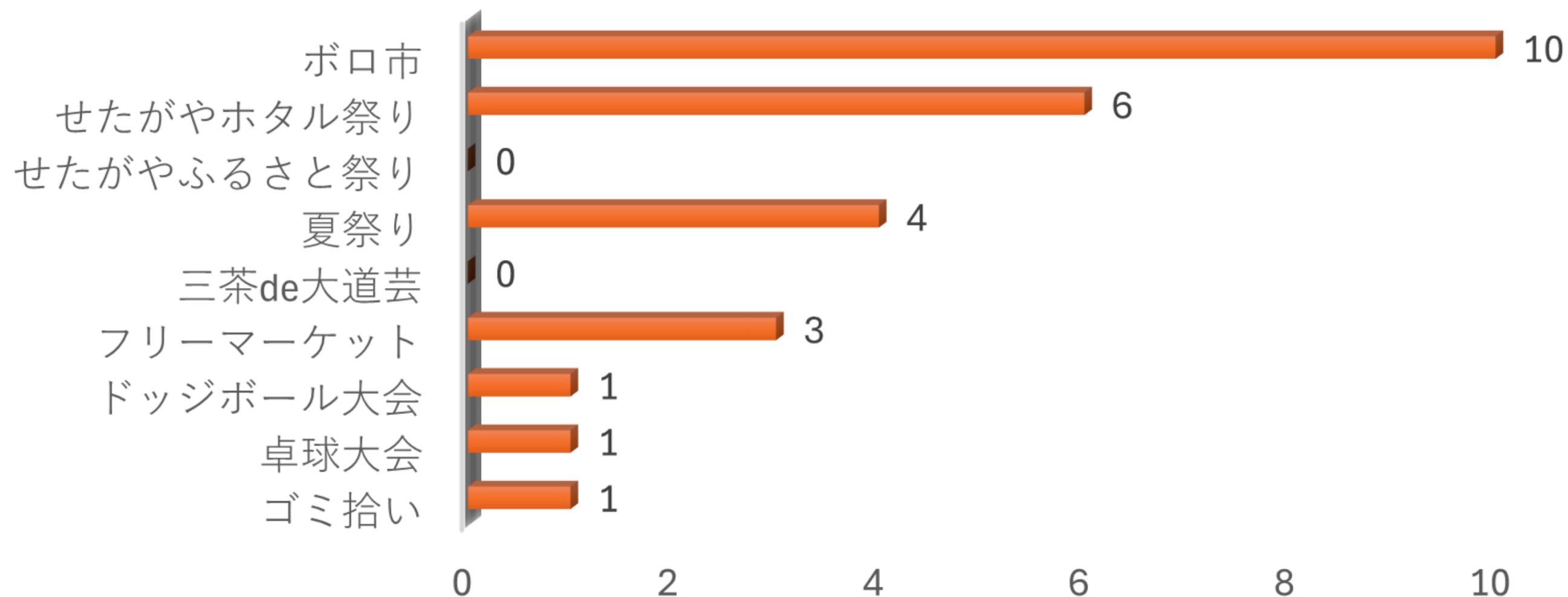
調査③ アンケート調査

はい⇒どのような手段で知りましたか？



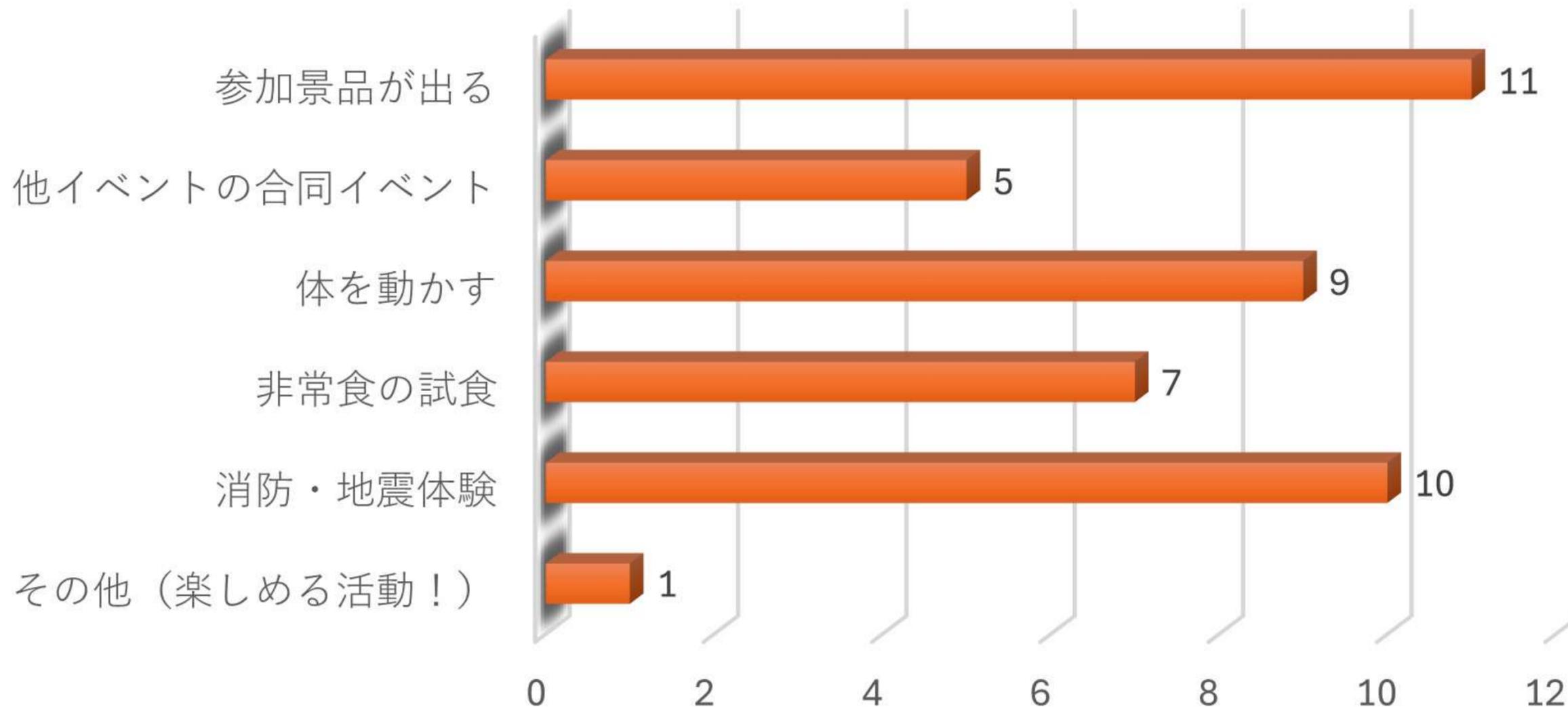
調査③ アンケート調査

Q2防災イベント以外のイベントに参加
したことはありますか？（複数可）



調査③ アンケート調査

Q3あなたが参加したいと思う
防災イベントは何ですか？（複数可）



調査③ アンケート調査

- アンケート調査に協力してくれた中学3年生5名に、回答結果を深掘りするためのグループインタビューを行った。

◆ 人の役に立ちたいと考えるようになったきっかけは？

- ・ 助けられるよりも助けたいから。
- ・ 地元への愛着があるから。

◆ 防災訓練参加前と参加後の気持ちの変化

- ・ 設営に関する知識を身に付けることができた。
- ・ 災害が身近な存在であることを実感した。



調査③ アンケート調査

- 家族間でのイベント関連の情報共有が効果的である。
- 体験型・参加特典のあるイベントが中学生には需要がある。
- 中学生がボランティア活動をはじめたきっかけには、身内の影響が大きいことが分かった。さらに、将来の役に立つ知識を身に付けたいという意識や地域を支えたいという思いが見受けられた。

結論

「中学生に防災イベントに参加してもらうためにはどうすれば良いか？」
→中学生にとって需要のある防災イベントの提供

01

参与観察

結果

- ・子どもや小学生が参加しやすい防災活動



02

ヒアリング

結果

- ・町内会では防災イベントの成功事例も存在する



03

アンケート調査

結果

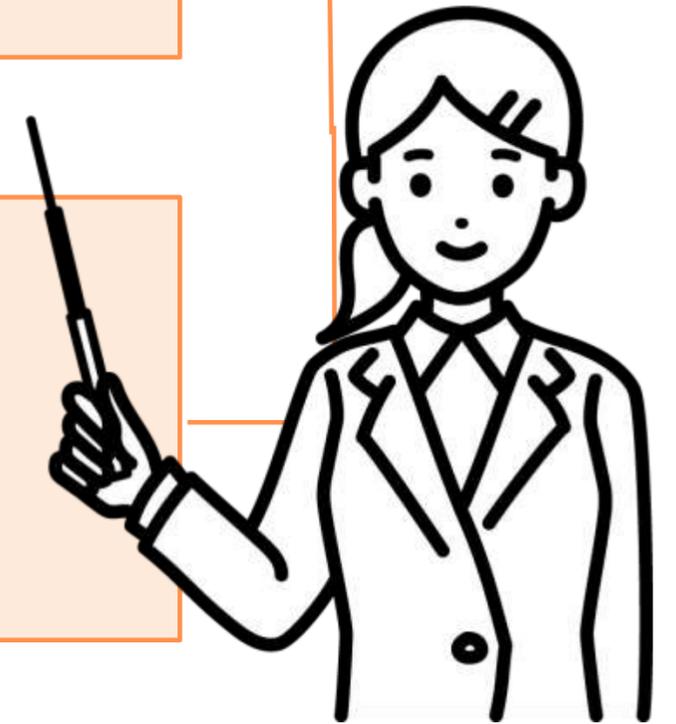
- ・家族の影響と情報共有の重要性
- ・体験型・参加特典のあるイベントは効果的



この研究から得られた知見

中学生が生まれ育った地元の事を考えていたということ
自分の意思で防災活動に参加していること

家族からの影響が参加意欲に大きく関与すること
+防災活動に協力的な親の支えがあったということ



中学生の防災活動参加を促進するためには・・・
家族の協力や家庭内での防災教育・自発的な参加を引き出す動機付けが必要

この研究の先にどのような課題があるか

- ①親・兄弟が防災に協力的であると参加意欲が高まりやすい
- ②地域貢献や他者をサポートしたいという意欲

明らかにできたこと

- ①具体的な防災イベントの形式
- ②参加率向上に向けた具体的なアプローチ方法

明らかにできなかったこと

今後必要な研究

- ・中学生が参加したい防災イベントの形式と内容の詳細について
- ・学校や地域での情報発信方法が家族全員の防災活動参加にどのように影響を与えるか？実際の防災イベントで検証する研究

謝辞

今回の私たちの調査においては、多くの皆様にご協力をいただきました。

防災訓練後アンケートにご協力いただいた中学生の皆様、ヒアリングに応じていただいた自治会の皆様、世田谷区地域振興課の皆様、

そして私たちの活動にご支援・ご協力をいただいたNPO法人まちこらぼの皆様、深く感謝申し上げます。

ありがとうございました。



ご清聴
ありがとうございます
ございました



参考文献リスト

- 内閣府（防災担当）、「地域と学校がともに防災教育を進めるために～地域防災教育コーディネーターの育成に向けて～」、
https://www.bousai.go.jp/kyoiku/pdf/r5_06_bousaikyoiku.pdf
（閲覧日：2024年12月18日）
- 広井良典（2009）『コミュニティを問いなおす』、ちくま新書
- 吉原直樹（2012）『防災の社会学 第二版』、東信堂
- 地域まちづくり推進室（2021）『宮崎市地域自治区
住民主体のまちづくり』、東信堂
- 石井大一郎（2021）『横浜の市民活動と地域自治』、東信堂
- 伊藤雅春（2021）『熟議するコミュニティ』、東信堂
- 世田谷区HP 世田谷区の統計
<https://www.city.setagaya.lg.jp/toukei/index.html>
（閲覧日2025年1月25日）